

保存会だより

2008.3.31
黒森歌舞
伎保存会

○事務局○
酒田市文化課
Tel.0234-26-5777

来年の演目は 「吉例寿曾我」に決定

三月九日、来年の演目を決める行事「太夫振舞」が黒森地区の日枝神社で行われ、「吉例寿曾我（きちれいことぶきそが）」に決まりました。昭和六十年以来、二十四年振りの上演になります。

今年の選者となったのは、役者の佐藤辰さん（十九歳）。寒い中でし



選者は井戸の水で身を清めました。

たが、神社境内の井戸で七杯半の水をかぶって身を清めてから、神社内で「神饌（しんせん）の儀」といわれる、演目候補を書いた三つのこよりから一つを引き上げる儀式を行い、来年の演目が決まりました。

今回の「吉例寿曾我」は、曾我の兄弟が父の敵である源頼朝の重臣

工藤祐経（すけつね）と対面する場面を描いた時代物です。また、これは時間が短いため、合わせて「鎌倉三代記」も上演します。座員たちがどのような舞台を見せてくれるか、大変楽しみなどころです。この「太夫振舞」の行事から、黒森歌舞伎の一年がスタートします。

正月公演・酒田公演 開催しました！

今年の黒森歌舞伎正月公演（二月十五日・十七日）と酒田公演（三月二日）が、盛大に開催されました。

正月公演は、時折雪が舞う寒い中でしたが、大勢の観客が集まり歌舞伎を楽しみました。

黒森小学校児童による少年太鼓・少年歌舞伎も上演されました。子どもたちは、稽古の成果を発揮し、堂々とした演技を見せてくれました。舞台の元気な子どもたちには会場のお客さんから大きな声援が送られました。

また、今年から新たに始めた「柵席」のお客さんには、湯たんぼや毛布、弁当、お神酒などのサービスが付いていて大好評。早くも来年の予約を入れるお客さんもいました。

「会場案内係」の大学生ボランティアも、座布団の貸し出しや会場案内として活躍し、お客さんに喜ばれました。



希望ホールで開催した酒田公演にも、全国から大勢のお客さんが集まりました。役者の迫真の演技には、盛んに拍手が送られました。

佐藤進一座長は、「今年の公演では、特に子役の二人に頑張ってもらった。今年は、茨城県の国民文化祭に出演する予定もあるので、これからも頑張っていきたい」と語ってくれました。

黒森小学校の大泉校長先生から特別寄稿をいただきました。

黒森歌舞伎と子どもの成長

酒田市立黒森小学校長 大泉 則昭

私は、平成十八年四月に黒森小学校校長を拝命し、寒河江市より転勤してまいりました。それまでに、生の歌舞伎を見たのはたった一度だけで、特に興味も知識もないという状態でした。十一月になり、少年歌舞伎・少年太鼓の練習が、黒森歌舞伎座員の方々によって開始され、保護者による支援委員会によって支えられていることを知ったとき、それまでの不安は期待へと変わっていききました。

黒森歌舞伎・少年歌舞伎を目の当たりにして、「本格的な迫力ある演技」であることに感動を覚えました。本年度は、「近江源氏先陣館」が演じられましたが、田村國雄先生より（子どもたち向けに）解説していただきました。そのこともあって、内容がともわかりやすく、せりふもたやすく理解できたように思えました。また盛綱が、実検の首を前にして、表情だけで演技をする場面は、今でも私の心に残っているほど印象的なものでした。

少年歌舞伎・少年太鼓の練習は、十一月から総合的な学習の時間に週一回行われます。少年太鼓を初めて目にしたときは、胸の奥底にずしりと太鼓の音が響き、



少年歌舞伎



少年太鼓

圧倒される感覚に襲われたことを記憶しています。少年太鼓は、四年以上の女子によって演奏されますが、新たに加わる四年生への指導には五・六年生女子があたります。中間休み・昼休みのわずかな時間を惜しんで教え合いが行われます。太鼓・笛の指導者が、全体指導をするころには、子どもたちはリズムをほぼマスターしている状態です。

少年歌舞伎についても、六年男子はそれまで先輩たちの演技を何度も見ているため、白浪五人男のせりふは、練習前から頭に入っている状態です。練習が進むにつれて、徐々に声の出し

方や見得（みえ）の切り方が様になってきます。二月十五日には、隈取りをほどこし、かつら・衣裳をつけ、晴れの舞台で演じられる様に驚きと感動を覚えました。これまでにない最高の歌舞伎。寒さをはねのけるほど張りのある重々しい声。小学生とは思えない程の見得の切り様。

私は、さまざまな行事（学校・地域行事）に参加して、学校と地域のつながりが大であることを痛感しています。また、子どもたちの地域行事への参加も盛んで、地域で子どもたちが育てられているとも言えます。子どもたちは、少年太鼓・少年歌舞伎を通して多くのことを学び、成長しているように思います。成長のあとは、上演の後のインタビューにも表れています。

今年度の黒森小学校の学校研究は、「伝え合う力を育てる」ことです。過去六年間も、「表現力を育てる」ことに努めてきました。これまでの学校研究の成果として、さらには、少年歌舞伎・太鼓の練習・公演を通して、人前で堂々と話せる子どもに育ってきたと考えています。あるいは、この「伝え、表現する力」は、黒森地区に脈々と受け継がれてきたものかもしれません。

これまで同様、地域の多くの方々からのご指導・ご支援をいただきながら、これからもずっと黒森少年歌舞伎・少年太鼓が、受け継がれていくことを期待します。